

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、
ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、
ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア、中国・人民元
マンスリー・レポート



ブラジル



メキシコ



トルコ



南アフリカ



オーストラリア



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー



インドネシア



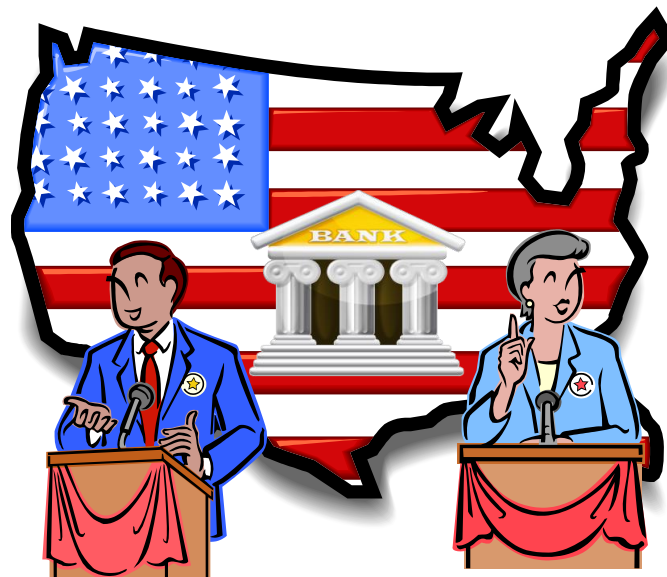
中国

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

今月のトピック

注目されるFRB議長の後任人事

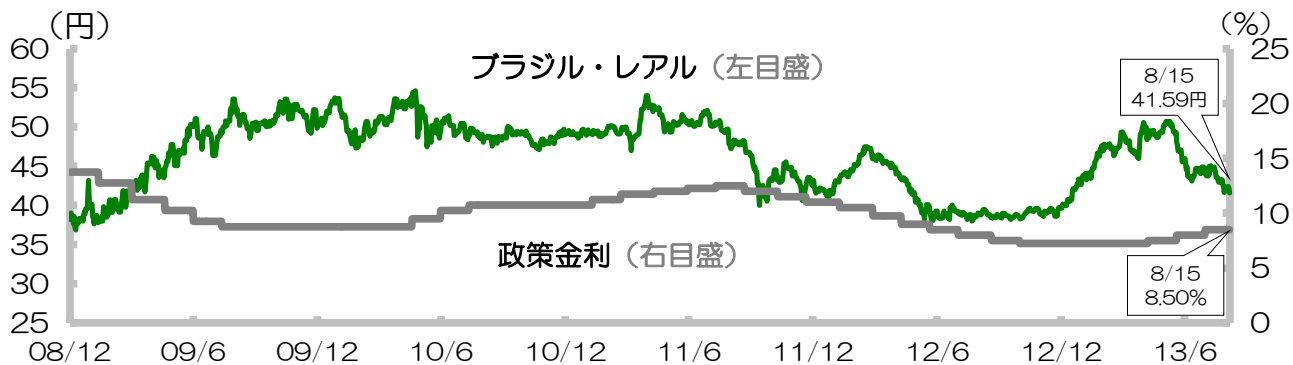
米国のバーナンキFRB議長が任期満了の2014年1月をもって退任する意向と伝えられていることから、金融市場では後任人事に関する話題が聞かれるようになってきました。数カ月前までは、シャネット・イエレンFRB副議長の昇格が本命視されていましたが、最近では元財務長官のローレンス・サマーズ氏の名前が大きく浮上しています。サマーズ氏は、2人のノーベル経済学賞受賞者を伯父に持ち、本人は16歳でマサチューセッツ工科大学に入学、28歳でハーバード大学史上最年少の教授になったという伝説的な経歴の持ち主で、クリントン政権時に財務長官、オバマ政権では2010年まで国家経済会議（NEC）委員長を務めました。サマーズ氏はホワイトハウスでの評価が高いといわれていますが、財務長官時代には金融業界寄りの姿勢を取って金融規制緩和を推進したことが金融危機の原因と批判されていることや、ハーバード大学学長時代には女性の能力に関する発言（本人は否定）を巡り不信任決議が可決され辞任するなど、資質に対する批判もあります。一方、イエレン氏がFRB議長に指名されれば初の女性議長誕生となることもあり、国会では女性議員を中心にイエレン氏支持が広がっており、性差も争点になっています。9～10月頃と予想されている後任議長の指名までは、政治的、社会的な争点を含めて目を離せないことになりそうです。



●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



ブラジル



【足元の金融市場の動き】～ ブラジル・レアルは対米ドルで、2009年以来の安値圏 ～

ブラジル・レアルは国内景気の回復が遅れる中、米国QE3の早期縮小開始が警戒され、対米ドルでは7月下旬にかけて下げました。その後、米国ではFOMC声明文で資産購入プログラムの縮小開始時期が示されず、雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想を下回ったことなどから同観測が後退し、国内では当局によるスワップ市場での自国通貨買いもあり安値圏で横這いとなりました。政策金利は8.5%に維持されています。

【当面の金利・為替の見通し】～ ブラジル・レアルの下落余地は限定的か ～

景気については、中銀委託の民間エコノミストの予測によれば2013年の経済成長率は+2.21%と潜在成長率(+3.5%)を下回る緩やかな回復が見込まれています。また、予防的利上げの効果からインフレ率が同中央銀行のターゲット内に収束し、7月の中国の輸出入額の増加を受けて株価が急伸するなど、明るい材料もみられます。今後はデモによる影響も現われてくると考えられますが、中国や欧州で良好な経済指標もみられていることから緩やかな回復が続くと予想しています。政策金利については引き上げ余地は残るとみており、ブラジル・レアルは追加利上げ観測や通貨当局によるスワップ市場での介入継続から下落余地は限定的とみています。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】～ メキシコ・ペソは対米ドルで下落するも、米国の雇用統計後には反発 ～

メキシコでは個人消費が僅かな伸びにとどまり、景気回復にやや遅れがみられます。政策金利は据え置かれました。メキシコ・ペソは米国でQE3の早期縮小開始が警戒され下げた後、FOMC声明文や雇用統計を受けて同開始時期が後退するとの見方から買い戻されて反発し、小幅の下げにとどまりました。

【当面の金利・為替の見通し】～ メキシコ・ペソは米国景気への期待から底堅い動きか ～

景気については緩やかな回復を続けるとみています。主要産業である自動車は前年比で輸出台数が減少しましたが、生産、国内販売ともに増加し、海外就労者からの送金額は回復に向かっています。また、エネルギー政策の抜本的な改革法案により、これまで国が管理してきた石油資源が民間に開放され、海外資本による開発投資の増加が期待されます。当面の政策金利については為替変動率の高まりから様子見姿勢を続けるとみられ、据え置きが予想されます。メキシコ・ペソは米国景気への期待から底堅い動きになるとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは貸出金利引き上げを受け、米ドルに対して底堅い動き～

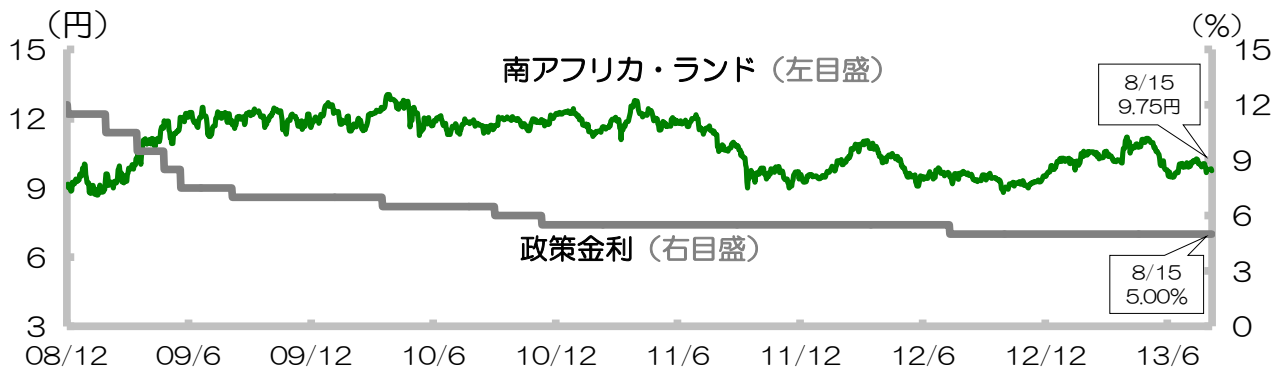
トルコでは、インフレ率の上昇や景気回復の遅れが続いています。同国中央銀行は政策金利を据え置きましたが、短期金利の上限となる翌日物貸出金利を0.75%引き上げて7.25%とすることを決めました。この決定は市場予想の0.50%に対し大幅な引き上げとなったことから、トルコ・リラは一旦下げ止まり底堅い動きとなりました。

【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは引き締め調節下、底堅い動きが続こう～

景気については、個人消費関連の指標に続き製造業関連でもようやく改善がみられました。ただ製造業PMIは景況判断の分岐点とされる50を下回り、消費者物価も上昇傾向が続いています。トルコ・リラは今後も米国QE3縮小開始への思惑から一時的に不安定な状況になることも考えられますが、国内では金融引き締め調節が続くと予想されることから底堅い動きが続くとみえています。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは投資家のリスク回避の動きが重しとなり、軟調に推移～

南アフリカの政策金利は5.0%に据え置かれました。南アフリカ・ランドの対円での動きは、失業率が市場予想を上回り、製造業生産高が前月比でマイナスとなった一方、貿易収支が改善し、PMIが前月から上昇するなど、強弱材料が交錯する中、米国では量的緩和政策の縮小開始時期に対する不透明感を受けて安全資産とされる円が選好されたことから軟調に推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドは調整一巡後はレンジ内での推移か～

景気については、引き続き製造関連の経済指標に跛行色がみられます。足元のインフレについては、生産者物価指数が再び加速していることから今後の物価動向が注目されます。同国準備銀行は景気動向に配慮しつつ、当面は政策金利を据え置くこととみられます。南アフリカ・ランドについては、経済指標に強弱材料が交錯する中、恒常的な貿易赤字などが通貨安要因と考えられますが、相対的に高い金利水準が維持されていることから、調整一巡後はレンジ内で推移するとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア



【足元の金融市場の動き】～オーストラリア・ドルは対米ドルで、利下げ後反発しレンジ内での動き～

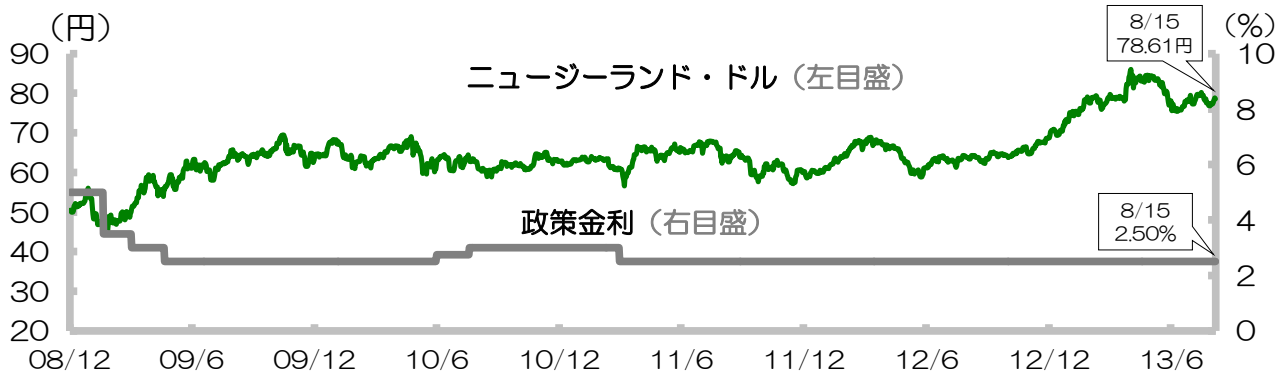
オーストラリアでは金融政策会合において0.25%の利下げが決定されました。政策金利の引き下げは5月以来となり、実施後の同金利は2.50%となりました。オーストラリア・ドルは軟調な資源価格、中国経済の成長率鈍化などを受けて下落基調で推移していましたが、利下げ実施後は反発しレンジ内での動きとなりました。

【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは下値固めの展開に移行か～

景気については、住宅市場に改善がみられる一方、雇用者数が減少するなど、経済指標は強弱まちまちの状況です。4月以降のオーストラリア・ドルの下落は、経済関係の深い中国・東アジア圏の景気減速、資源開発投資ブームの終焉などを受けた資金流出が影響したとみられます。オーストラリア・ドルは、根強い追加利下げ観測や米国の量的緩和縮小開始の可能性など弱気材料が残りますが、高格付・高利回りを背景とした国債市場の投資魅力度が依然として高いことから、下値固めの展開に移行する時期も近いとみています。



ニュージーランド



【足元の金融市場の動き】～ニュージーランド・ドルは、オーストラリア・ドルに対して上昇～

ニュージーランドでは、政策金利は据え置かれ、改めて年内は政策金利を据え置く見通しが公表されました。一方で年明け以降の利上げの可能性が示唆されたこともあり、市場金利は上昇基調となっています。ニュージーランド・ドルは、政策金利が据え置かれた後、政策金利が引き下げられたオーストラリアとの金利差拡大を受けて、オーストラリア・ドルに対して上昇し高値圏で推移しています。

【当面の金利・為替の見通し】～ニュージーランド・ドルは上値の重い展開か～

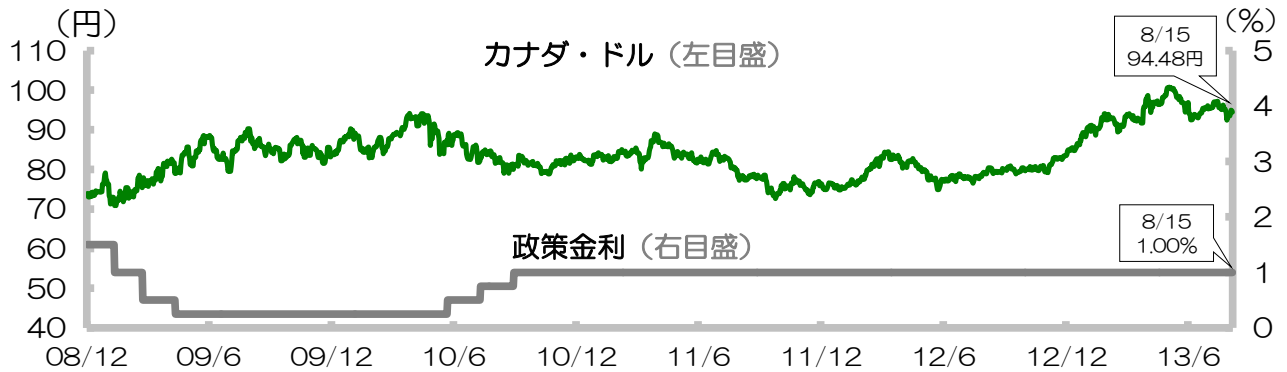
景気が順調に回復する中、消費者物価の動きは落ち着きをみせています。景気減速が懸念されていた中国では一部の経済指標に明るさもみられるようになりました。市場金利については米国の金利動向の影響を受けやすく、量的緩和政策の縮小開始時期を巡るFRBの動向が注目されます。ニュージーランド・ドルは中央銀行が自国通貨高に懸念を表明していることから、上値の重い展開が予想されます。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



カナダ



【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは、対円で小幅に下落～

5月の実質GDP成長率は+0.2%(前月比)となりました。6月の貿易収支は▲4.7億カナダ・ドルと市場予想に対して小幅の赤字となった一方で、7月の雇用者数は市場予想を下回り、失業率は7.2%と小幅に悪化しました。同国中央銀行は足元の不安定な経済状況を踏まえ、政策金利を据え置きました。カナダ・ドルは対円では、概ね米ドルに近い動きとなり小幅に下落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは今後は底堅く推移か～

カナダでは消費者物価指数が誘導目標(中心値)を下回っていることから、政策金利は当面据え置かれるとみえています。市場金利については、米国金利と同様にFRBによる量的金融緩和の縮小開始時期を巡る思惑に影響を受けると考えられます。カナダ・ドルについても、米国を中心に外部環境の影響を受けやすい展開が予想されますが、国内の経済指標の中には良好なものもみられることから、底堅く推移するとみえています。



ノルウェー



【足元の金融市場の動き】～ノルウェー・クローネは小幅に下落～

ノルウェーの政策金利は1.50%に据え置かれています。ノルウェー・クローネの対円での動きは、失業率(統計局発表)が市場予想を小幅に下回ったことや、消費者物価指数が市場予想を上回る伸びとなり、一部にみられた利下げ観測が後退したことが通貨高要因となった一方、製造業PMIが市場予想を下回ったことに加えて、米国の量的緩和政策の縮小開始時期を巡る不透明感から円高が進んだこともあり、小幅に下落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ノルウェー・クローネはレンジ内で推移か～

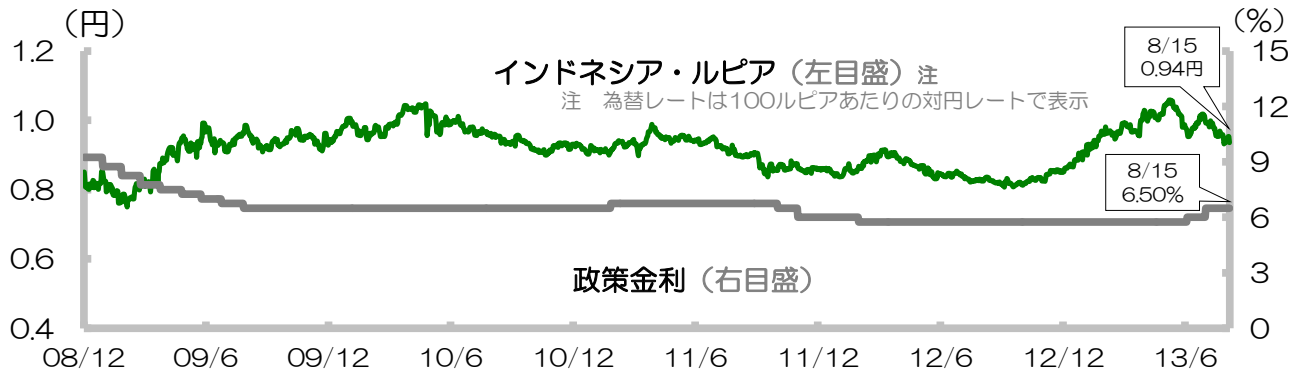
景気については、鉱工業生産(製造業)が市場予想を上回った一方、製造業PMIは小幅の改善にとどまっています。ユーロ圏では良好な経済指標がありました。同国景気への効果が表れるには時間を要するとみられます。同国中央銀行は、当面の政策金利は低位を維持しながら、景気動向に加えて足元加速しているインフレ動向についても警戒するとみられます。ノルウェー・クローネは、健全な財政・経常収支が通貨高の要因ですが、政策金利が低位に据え置かれると予想されることから、レンジ内で推移するとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



インドネシア



【足元の金融市場の動き】 ~ インドネシア・ルピアは、景気減速に対する懸念から下落 ~
 4~6月期実質GDP成長率は+5.8% (前年比)と2010年以来の低水準にとどまりました。中央銀行はインフレ加速および通貨安の抑制を目的として景気減速懸念が広がる中、6月、7月と2カ月連続で政策金利の引き上げを実施しましたが、8月には同据え置きを決定しました。インドネシア・ルピアは米ドルに対して、下落傾向が続く、長期金利については通貨安とともに上昇傾向が続いています。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ インドネシア・ルピアがさらに下げる場合には利上げ再開の可能性も ~
 景気については、内需が堅調な一方で輸出が減速しています。燃料価格引き上げにより足元のインフレ率は急上昇し、通貨安による輸入物価の上昇や利上げの影響なども広がっています。景気の悪化が懸念されることから、インドネシア・ルピアはさらに下落する可能性もあります。中央銀行は今回の同金利の据え置きに際して、金融市場オペレーションの強化、長期的な通貨価値の維持、銀行監督制度の導入など、金融市場の安定を図ることを明らかにしました。通貨安に歯止めがかからない場合には利上げ再開の可能性もあるとみています。



中国



【足元の金融市場の動き】 ~ 中国・人民元は対米ドルで小幅に上昇 ~
 中国では、7月の製造業PMI (政府発表) が50.3と市場予想を上回り、貿易統計では輸出が+5.1%、輸入が+10.9% (いずれも前年比)と、大幅に増加しました。これらのことから景気の減速に歯止めがかかりつつあるとの期待もあり、中国・人民元は米ドルに対して小幅に上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ 中国・人民元はレンジ内での推移か ~
 各種の経済指標は強弱まちまちながら、経済成長率の低下に歯止めがかかったとの見方も出始めています。各種報道から中国政府が想定している経済成長率の最低水準は7%程度と考えられ、この水準に達しない場合には景気刺激策を行うことが予想されています。ただし、その場合でも基本的に構造改革の進展を促す形で実施すると考えられます。中国・人民元は、景気回復や金融市場改革などによる資金流入期待がある一方、通貨高に対する警戒感もあり、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg, 目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類 (目論見書等) ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。